がんばれ日本！ 世界は日本と共にある

東日本大震災直後から，世界各国・地域は日本に対して数え切れないほどの励ましのメッセージを届け，援助の手を差し伸べてくれた。それらの支援には，どのような思いが込められているのだろうか。また，私たち中学生は，その支援にどのように応えていけばよいのだろうか考えてみよう。

1 世界各国・地域からの迅速な支援

写真提供：駐仙台大韓民国総領事館

震災後三日間で，七つの国・地域（韓国，台湾，米国，シンガポール，中国，スイス，ドイツ）が被災地に入った。その中でも，震災翌日にいち早く消防防災庁職員などで構成されるレスキューチームを派遣したのは，お隣の韓国だった。

３月12日に救助犬チーム（人員５名と救助犬２匹），さらに３月14日には追加支援隊員102名が派遣され，総勢107名という大規模な救助隊が仙台市で活動を始めた。警察と共に，救助犬や機器類を利用して，被害が大きかった宮城野区蒲生地区などで行方不明者の救助・捜索活動を展開した。

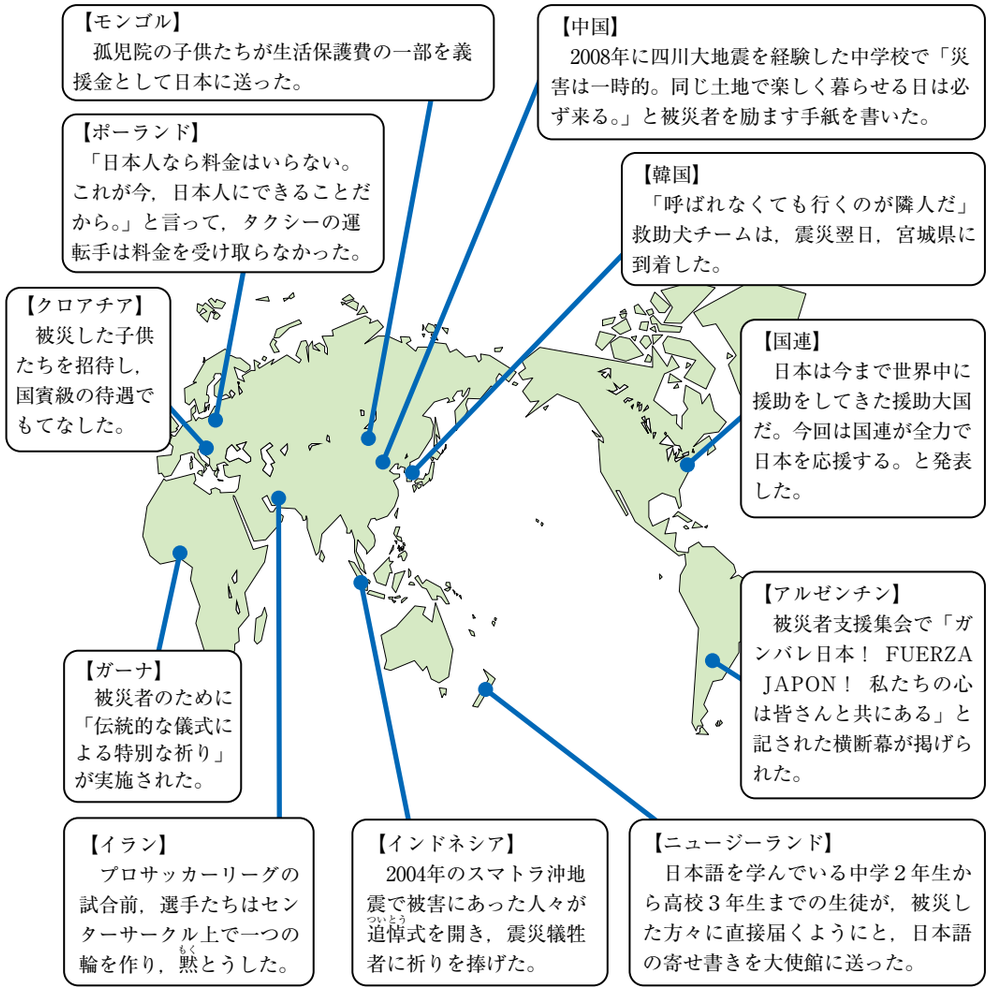
また，中国は３月14日から岩手県大船渡市で，台湾は３月16日から，モンゴルは17日から，宮城県名取市，岩沼市等でそれぞれ支援チームの活動を開始した。

2 国際姉妹都市をはじめ世界中からの仙台市へのお見舞い

３月12日・13日メキシコのアカプルコ市では，市民による被災者追悼の黙とうと献花が行われた。３月17日には，韓国の光州広域市から支援物資として飲料水，カップラーメン，生活必需品が届き，翌18日には中国の長春市から飲料水10トンが届けられた。３月19日フランスのレンヌ市では市庁舎の前で募金活動が行われた。

アメリカのリバサイド市からは市民の応援メッセージと寄付金が，ダラス市からも寄付金が届けられた。ベラルーシのミンスク市は被災した高校生訪問団を受け入れ，クロアチアは小学生訪問団を受け入れた。クロアチアでは首相から歓迎の言葉を直接いただくなど，厚いもてなしを受けた。

3 世界各国・地域からの励ましや祈り



こうした海外からの援助や日本国内のボランティア支援など，多くの人々に支えられて東日本大震災の復旧・復興は進められている。

？ 考えよう

○復興への取り組みを継続していくために，私たちは何を考え，どんなメッセージを世界に向けて発信していけばよいか話し合ってみよう。